

「拉致」解決 安倍政権に期待

群馬

横田滋・早紀江夫妻ら北朝鮮による拉致被害者家族を支え続けてきた群馬ボランティアの会の活動が10年を超えた。第2次安倍晋三内閣の誕生で解決へ向け関係者の期待も高まる中で、会長を務める大野トシ江さん(80)と夫で事務局長の敏雄さん(76)に思いを聞いた。

(椎名高志)

きょうの人

「ボランティアの会はその後、「救う会・群馬」としても認定されましたが、経緯は？」

トシ江さん「日銀マンだった滋さんの転勤で昭和63年から3年間、横田夫妻は前橋市に住んでいた。クリスチャン同士ということで前橋キリスト教会で早紀江さんと巡り合った。当時、煙のように消えてしまっためぐみちゃんを探し続けていた早紀江さんと、長女を亡くして苦しんでいた私の心が通じ合って家族同様の交際が始まった。その後、めぐみちゃんが拉致されたと判明し、横田夫妻と前橋との関わりが報道されると大勢の人が『何かしたい』と集まって盛り上がりをもたせました」と思い会を発足させた

敏雄さん「最初、大勢だからやめなさいと忠告したが、どうしてもやるということで、事務局長は私がやるから会長はママがやりなさいということになった。立ち上げは平成14年12月で、翌年には『救う会・群馬』として認定された」

「これまでの活動の成果を教えてください」

敏雄さん「昨年末までに署名は6万7179人、募金は1822万4573円になった。横田夫妻らを講師にした講演会も22回行った」

「この10年を振り返るといかがですか」

トシ江さん「ただ早紀江さんたちをなぐさめ支えたいという思いだけでやってきた。ボランティア組織は事務局がしっかりしないとダメといわれるが、その典型だったとも思う」

敏雄さん「本当に一生懸命やった。銀行勤務で文書や規

則の作り方をたたき込まれたこと、音楽や音響機器に力をつけていることも会の運営には役立った」

「今後の抱負は」

敏雄さん「昨年暮れに警察庁が拉致の可能性のある失踪者として868人の数を公開。それまで失踪者ゼロとみられていた栃木県でも6人とされた。栃木には救う会がないので救う会を栃木に実現させたい。また、群馬県内で家族が生きている特定失踪者は3人いるが、うち安中市の横田真人さんについては(特定失踪者問題調査会が議論の余地なく拉致と認定する)1千番台に上げたい」

「第2次安倍政権が誕生しました。期待感はどうですか」

トシ江さん「小泉訪朝の際にも同行し力を発揮している。ので、ものすごく期待する。拉致家族も私たちもみんな高齢。とにかく時間がない」

敏雄さん「北朝鮮と直接的な交渉をやってくれる人ではないかと思う。今、それに向けて準備を進めていると信じる」



〈おのおのとお、としえ〉
敏雄さんは昭和11年、トシ江さんは8年、共に前橋市生まれ。敏雄さんは県立前橋高校を卒業後、足利銀行に入行。55歳で退行、ホームセンターの上場にもたずさわった。高学年時代にクリスチアンの子高生を卒業後に県立前橋女子高校を卒業後にクリスチアンに。前橋キリスト教会で知り合い、33年に結婚。自宅は前橋市三俣町。

前橋支局
〒371-0023
前橋市本町1-14-6
TEL 027・221・4455(代)
FAX 027・220・1582
maebashi@
sankai.co.jp
販売 027・221・4457
広告 027・220・1168
購読申し込み
0120・81・2950
配達・集金
0120・34・4646
紙面・記事
03・3275・8864
Web
http://sankai.jp.msn.
com/region/region.htm